1

地域振興と遺産に関するプロジェクトの計画と実践

独立行政法人・国際協力機構（JICA）
経済基盤開発部　平和構築・都市・地域開発グループ
平和構築・都市・地域開発第2課　副調査役

大石　健介

2014年1月24日
於：平城宮跡資料館講堂

1

2

はじめに…

- JICA
  - 独立行政法人 国際協力機構
  - Japan International Cooperation Agency

独立行政法人国際協力機構法（平成14年法律第136号）に基づき設立された独立行政法人で、開発途上地域等の経済及び社会の開発若しくは復興又は経済の安定に寄与することを通じて、国際協力の促進並びに我が国及び国際経済社会の健全な発展に資することを目的とする。

2

3

JICAに対するイメージ？

3

4

本日のご説明内容

1. JICAの概要（簡単に…）

2. 地域振興・文化財の保護とJICAの取り組み
3. 文化遺産に対するアプローチの事例①
   ヨルダン国『ペトラ博物館整備計画』
4. 文化遺産に対するアプローチの事例②
   エジプト国『大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト』

5. 地域振興と遺産に関するプロジェクトの計画と実践
6. ODA（特に技術協力）をうまく使って文化遺産保護に取り組んでいくためには？（項目出しのみ）

4

5

本日の骨子

- JICA事業における文化遺産へのアプローチ
  ＝観光（地域）開発＋文化財保護　が基本

- ペトラ博物館「計画」
  - ペトラにふさわしい博物館を文化財関係者と一緒に作る。
- 大エジプト博物館保存修復センター
  - センターの人材育成：8年間の「計画」策定

- 上記の案件における「計画」の意味と役割

5

6

PART I: JICAの紹介

既にご存じだとは思いますが・・・

（1）JICAとは？

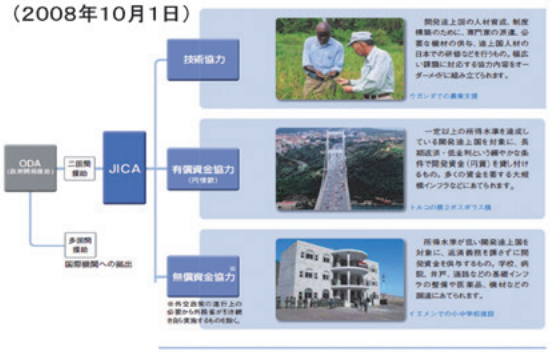
（2）JICAのビジョン・使命・戦略は？

6

7

（1）JICAについて

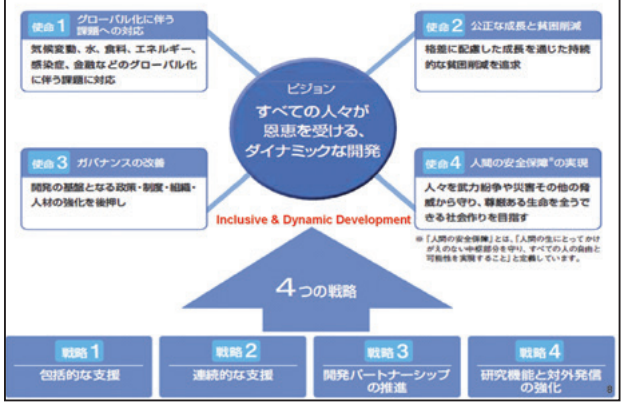
●政府開発援助（ODA）の実施ツールを新JICAに集約化
（2008年10月1日）



7

8

（2）JICAのビジョン・使命・戦略



8

9

PART II

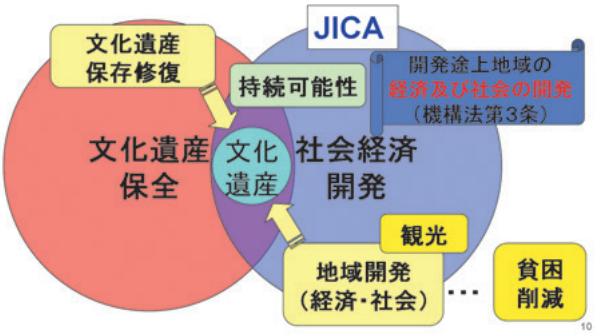
地域振興・文化財の保護とJICAの協力

9

10

(1)文化遺産へのアプローチ

●文化遺産を核にした、持続可能な地域開発の実現！



10

11

文化遺産とJICA事業の関わり
観光振興支援 ＋ 文化財保護

観光振興支援

- 観光マスタープランづくり
- 観光機関への能力強化支援
- 観光振興のための官民連携推進
- 地域資源を活かした観光開発

＋

文化財保護

- 遺跡の調査・保存・修復
- 遺跡の管理支援
- 博物館建設
- 博物館における展示・保存方法の支援

文化財保護と観光振興の両立を目指して

- 文化遺産を活用した観光開発
- 文化遺産周辺住民に裨益する活動
- 地域に根ざした博物館活動

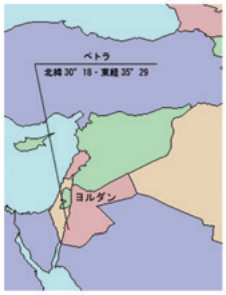
11

12

文化遺産保護に関するJICAの主な支援実績
（技術協力、無償資金協力）

12

13



事例①

無償資金協力（一般文化無償）
『ペトラ博物館整備計画』

13

14

すでにご存じだと思いますが・・・

- ヨルダン最大の観光地

14

15

ペトラ博物館整備計画の概要と東文研との協力①

(1)案件概要・全体スケジュール

【目的】
ヨルダン国の要請を受け、ペトラ遺跡入口隣接地における博物館整備により、歴史的文化遺産の展示及び遺跡の保存の重要性に関する情報提供の機能強化を図り、同地域の観光資源として魅力のある観光産業の振興と発展、及び雇用機会の創出によることを目的とする。

↓
↓
↓

【本博物館に期待される役割】

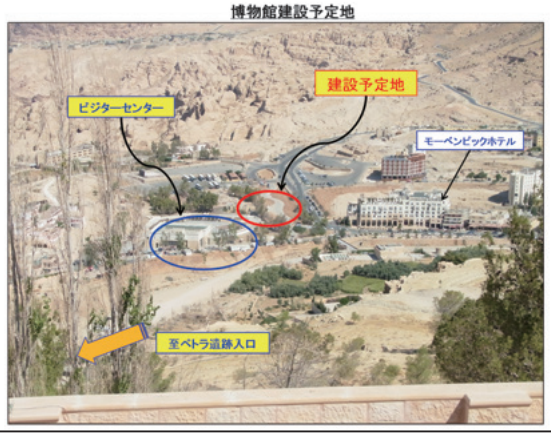
観光開発 ・・・ 現地の観光資源として地域振興と発展に貢献

文化財保護 ・・・ ペトラの文化遺産の展示＆適切な保存（維持管理）

15

16

博物館建設予定地



16

17

建設予定地遠景

18

19

【現在の博物館:展示・保存の状態は悪い】

20

【ビジターセンター】
博物館に隣接。
このビジターセンターと
博物館の機能を相互補完的
にすることが求められている。

21

案件の進捗(スケジュール)

- 2011年8月　ヨルダン国より要請(2010年度の修正版)
- 2012年6月下旬　外務省案件採択(年央採択)及びJICAに対する調査実施指示

- 2012年8月　**第一次現地調査**(要請内容・実施体制・展示計画等の確認)
- 2012年10月　**第二次現地調査**(展示計画及び建設サイトの確保状況の確認)
- 2013年6月　**第三次現地調査**(遺跡のバッファーゾーン＆土地問題の確認)
- 2013年9月　**第四次現地調査**(概略設計＝博物館の施設、設備、機材、運営維持管理体制等に関する調査:調査期間は約4ヶ月間)
  ＆初期遺跡影響評価の実施

- 2014年1月　**ドラフト・レポート説明**(概略設計結果の説明と合意取得)
- 2014年2月　**閣議請議及び両国政府による交換公文(3月)**(Exchange of Notes: E/N)
  (E/N後に無償資金協力本体事業の開始となる。工期:2年以内)

21

22

ペトラ博物館整備計画の概要と東文研との協力

【本件のポイント】
①世界中から観光客が訪れる世界遺産であるペトラの中核となる施設、日本とヨルダンの友好のシンボルとなる施設。
⇒ヘタなものは建てられない。

②ペトラ遺跡群の圧倒的な存在感に対し、展示可能な遺物が不足。
⇒誰を対象に何を見せるか？どうやってインパクトを出すか？

③ペトラ開発観光局(実施機関)の実施体制と脆弱な展示計画。
⇒実態上日本側の手厚い支援がないと展示計画が決められない。

展示計画は本来
ヨルダン側が決めるべき
もの。それを支援しよう
にも
JICA自身には
ノウハウなし！

東京文化財研究所との連携協定に基づく協力による対応！

22

23

ペトラ博物館整備計画の概要と東文研との協力

(2)東京文化財研究所との協力

①プロジェクトの初期段階(企画構想段階):
・当該国・地域に知見のある人材の紹介・調査参団の内諾取得。
・展示計画の検討支援・アドバイス。

②概略設計段階(設計・積算段階):
・現地調査を通じて判明した展示計画に関連する考古学上の諸課題に対する支援・アドバイス。(特にソフトコンテンツ)
・現地調査参団人材の紹介・調査参団の内諾取得。(必要に応じ)
・博物館の設計(特に動線や展示方法・そのための機材等)に関するアドバイス。
⇒プロジェクトを支援する委員会等の設置を検討中。

☆コンセプト創りの段階からの協力！
☆案件そのものが博物館を「計画する」プロセスになっている。

23

24

ペトラ博物館整備計画の概要と東文研との協力

【JICA－東京文化財研究所の協力おけるフォロー事項・留意点】

①試行的な今回の取り組みの反省と教訓化
⇒どのような協力のあり方が望ましいのか、教訓として残していく。

②開発と文化遺産保護の接点と相互に配慮すべき事項の整理
⇒ヨルダン側、開発関係者(外務省、JICA)、文化遺産関係者が満足し得る最大公約数的な点にどうやって落としていくか？

みんなが満足できる
「70点」の環境づくり！

24

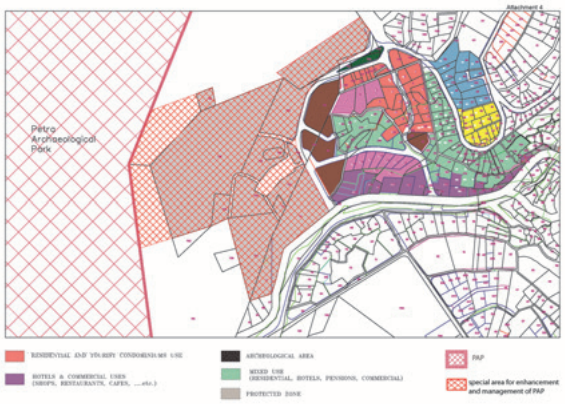
25

（ここまでのまとめ）ペトラ博物館案件における計画と実践

- 博物館整備「計画」
  - **案件そのものが「計画」を作り上げるプロセス**
- 文化遺産に関しては比較的知見の少ないJICA
  - **案件の最初期から文化財のプロ（東京文化財研究所）の協力を得ながら、案件を実施。**
- 案件運営上での課題への対応・・・
  - なかなか決まらない「Buffer Zone」
  - 初期遺跡影響評価（Initial Heritage Impact Assessmentの実施）

25

26



27

初期遺跡影響評価の実施 (Initial Heritage Impact Assessment)

- 遺跡への影響を最小限にするために初期遺跡影響評価の実施（UNESCOとの関係）
  - 博物館サイト周辺地域の遺物の有無（考古学的評価）
  - 景観シミュレーション
  - 交通流調査
- 結果報告書のUNESCO 世界遺産センターへの提出

27

28

地域開発・観光開発の視点から

- 無償資金協力の実施と合わせ、技術協力プロジェクトを並走。
  - 博物館学芸員のトレーニング
  - ペトラ本体のみならず周辺遺跡にもアプローチを検討
  - 周辺住民への裨益（お土産物開発等？）

29

事例のまとめ～「計画」策定の観点から～

- 案件そのものが博物館を「計画する」プロセス。
- 文化財保護のプロとの協力。
  - 案件の最初期から、東京文化財研究所の協力得ながら案件を実施。
- 案件の進捗に合わせた「計画」の修正・変更。
  - 博物館の用地問題
  - 「初期」遺跡影響評価の実施
- 無償と技協のセットで「観光開発＋文化財保護」を目指す！

29

30

事例②

技術協力（円借款付帯技プロ）
『大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト』（GEM-CCプロジェクト）

30

31

対エジプト協力上の位置づけ

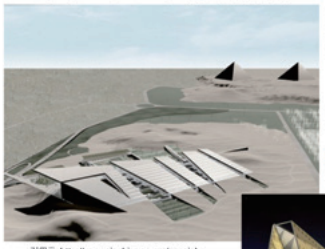
対エジプト国別援助計画
ー開発課題「輸出振興・産業育成」
ー協力プログラム「観光開発支援」

：観光セクターは、主要な外貨獲得源であり、雇用創出の面でも比較優位が高いことから、円借款供与が決定された「大エジプト博物館建設計画」を軸として、エジプトの観光振興に資する支援を実施する。

31

32

大エジプト博物館（GEM）への協力概要

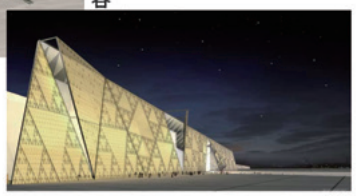


Grand Egyptian Museum (GEM) の完成予想図

供与限度額：約348億円

約10万点の考古学展示品を収容

引用元：http://www.aiachicago.org/special_features/2008dea/gallery.asp?imgID=1381

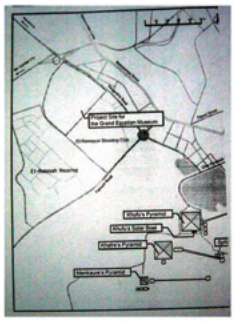


引用元：http://www.e-architect.co.uk/egypt/grand_egyptian_museum_cairo.htm

32

33

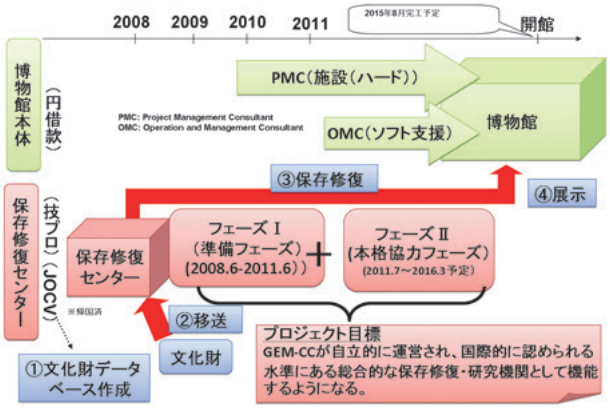
サイト



33

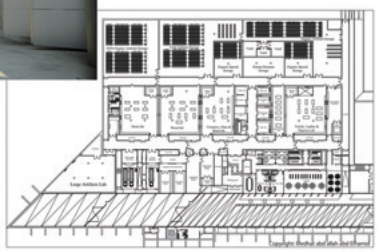
34

大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト



35

GEM-CC外観、平面図



GEM –CC =
Grand Egyptian Museum –
Conservation Center

35

36

GEM-CC内部

36

37

GEM-CCの役割

GEM-CCは、GEM附属の保存修復施設として、

第一義的にGEMに収蔵予定の遺物の受け入れ、登録、開梱、殺虫処理（燻蒸）、収蔵・管理、収蔵庫や修復ラボ等の環境管理、GEMの展示支援、遺物のドキュメンテーション、各種遺物の修復処置などの保存修復全般に関わる活動を中心的に担う。

また、GEM-CCは、所属する保存修復家、保存科学者、収蔵庫管理者等の育成という重要な課題ももっている。将来的にはエジプト国内外における保存修復分野の人材育成のセンターへとその役割を展開していくことも想定される。

37

38

経緯

契機	L/A2006年5月15日	円借款：大エジプト博物館建設事業
	2007年8月	技術協力プロジェクト案件採択（本件）
準備時期	2008年6月～	フェーズⅠ ・GEM-CCの施設や人材が整うのを待つ ・実施可能な分野から技術研修を開始 ・保存修復にかかる人材育成計画の作成 ・文化財データベースの整備支援
	2010年春	GEM-CCの施設や人材が十分に整えられた事実を確認
	2010年6月	GEM-CC開館
本格協力	2011年7月～	フェーズⅡ ・人材育成計画に基づく技術研修の本格化
	2012年3月	円借款本体　建設工事着工

38

39

GEM-CCへの協力概要

（1）予防保存
•労働安全衛生、総合的有害生物管理（IPM）、殺虫処理、微生物管理、収蔵品管理（所内移動・梱包）、虫害・燻蒸
（2）保存修復
•Documentation、彩色文化財、染織品、紙／パピルス、石材、木材、金属、ミイラ保存環境管理、ガラス
（3）保存科学
•保存修復科学、保存科学概論、博物館環境科学、保存科学試験法、文化財の診断技術・分析法
（4）遺物データベース構築支援

39

40

フェーズ2の枠組み

- 期間：2011年7月1日～2016年3月31日まで　うち最初の3年間に集中的に研修を実施
- 上位目標：「大エジプト博物館保存修復センター（GEM-CC）が、エジプトにおける文化財保存修復の中心的な機関として、国際的な保存修復・研究拠点としての基盤が整備される。」
- プロジェクト目標：「GEM-CCが自立的に運営され、国際的に認められる水準の、総合的な保存修復・研究機関として機能するようになる」

✓ 成果1：GEM-CCの組織運営方針が確立される
✓ 成果2：GEM-CCスタッフの保存修復に関する知識および技術が向上する
✓ 成果3：収蔵品データベース構築のための体制が整備される

40

41

実績：現地ワークショップ（1）

- 「染織品保存修復」（女子美術大学、東文研）2008/7/24～2008/8/2　2名派遣
- 「金属文化財保存修復」2009/3/1～2009/3/5　第三国講師派遣
- 「写真撮影」（サイバー大学、写真家）2010/3/12～2010/4/2　2回、3名派遣
- 「IPM integrated pest management」（文化財虫害研究所、イカリ消毒、NPOカビ相談センター）2010/5/14～2010/5/22　3名派遣
- 「梱包・移送」（日本通運株式会社）2010/7/3～2010/7/17　4名派遣
- 「遺物の取り扱い」（国立民族学博物館）2010/10/8～2010/10/23　4名派遣
- 「第2回IPM」（文化財虫害研究所、イカリ消毒、NPOカビ相談センター）2010/11/26～2010/12/4　3名派遣
- 「労働安全衛生」（東京芸術大学、東文研）2011/4/25～2011/5/8　2名派遣
- 「文化財移送・梱包」（日本通運株式会社）2011/7/11～2011/7/30　4名派遣
- 「第3回IPM」（文化財虫害研究所、イカリ消毒、NPOカビ相談センター）2011/11/18～11/26　3名派遣
- 「収蔵品管理」（国立民族学博物館）2011/12/2～2011/12/10　3名派遣
- 「文化財移送・梱包研修」（日本通運株式会社）2012/1/29～2012/2/21　7名派遣

41

42

実績：現地ワークショップ（2）

- 「第一回学術シンポジウム」（東文研）2012/2/24～2012/2/28　1名派遣
- 「保存修復材料としての和紙」（東文研他）2012/2/27～2012/3/10　3名派遣
- 「労働安全衛生」（東京芸術大学、東文研）2012/4/30～2012/5/11　2名派遣
- 「保存科学概論」（現地ベース）2012/5/20～2012/5/22
- 「博物館環境科学」（現地ベース）2012/6/6～2012/6/13　第三国講師派遣
- 「文化財移送・梱包研修、重量品取扱」（日本通運株式会社）2012/6/25～2012/7/20　6名派遣
- 「染織品」（多摩美大、産業技術研究セ）2012/10/12～2012/10/20　2名派遣
- 「収蔵品管理」（国立民族学博物館）2012/11/30～2012/12/15　3名派遣
- 「文化財移送・梱包研修、重量品取扱」（日本通運株式会社）2013/1/29～2013/2/20　6名派遣
- 「彩色文化財」（筑波大学、早稲田大学、東京藝術大学）2013/2/22～2013/3/9　3名派遣
- 「第二回学術シンポジウム」（愛知県立芸術大学）2013/3/15～2013/3/21　1名派遣
- 「労働安全衛生」（東京芸術大学、東文研）2013/4/26～2013/5/7　2名派遣
- 「文化財の診断技術・分析法」（東文研）2013/5/8～2013/5/15　1名派遣
- 「染織品II」（東文研、NHK）2013/4/12～2013/4/25　2名派遣

42

43

実績：現地ワークショップ（3）

- 「文化財移送・梱包研修、重量品取扱」（日本通運株式会社）2013/6/8～2013/6/30　6名派遣

43

44

実績：本邦研修（1）

- 「文化財移送/梱包」2009/9/28～2009/10/11　7名招聘
- 「保存修復（分析機器）」2009/8/26～2009/9/18　2名招聘
- 「保存修復（染織品）」2009/7/8～2009/9/2　3名招聘
- 「保存修復マネジメント」2010/9/14～2010/9/26　オサマ館長代理招聘
- 「保存科学機器分析」2010/9/14～2010/10/8　3名招聘
- 「IPM（微生物）」2010/9/14～2010/10/8　2名招聘
- 「微生物管理」2011/9/11～2011/10/7　3名招聘
- 「収蔵庫管理」2011/9/24～2011/10/9　5名招聘
- 「IPM（殺虫処理）」2011/10/1～2011/10/16　4名招聘
- 「保存修復材料学」2012/8/30～2012/9/22　10名招聘
- 「微生物管理研修」2012/10/29～2012/11/22　3名招聘

44

45

実績：本邦研修（2）

- 「収蔵品管理研修（本邦Co2殺虫処理）」2013/6/14～2013/6/28　6名招聘
- 「染織品研修」2013/9/2～2013/9/13　7名招聘
- 「微生物管理研修」2014/1/14～2014/2/14　3名招聘
- 「木材研修」2014/2/9(頃)～2014/2/20(頃)　7名程度招聘（予定）

45

46

GEM-CCにおける「計画」①

- GEMの開館に合わせ、遺物を修復できるような力をつける：戦略的な研修計画の策定。
  - 2007年～2015年の研修計画（ドラフト）を事前に作成。
  - 年度ごとに見直し。現地の状況に応じて柔軟に対応。
- エジプト情勢による計画変更への対応
  - 2011年　アラブの春
  - 2013年　夏の情勢不安

46

47

GEM-CCにおける「計画」②

- GEM-CC単体のプロジェクトではない・・・GEM-CCをとりまく状況を見ながら、案件の計画を総合的に判断。
  - GEM本体の工事の動向、進捗具合
  - カイロ博物館からの文化財の移動の進捗
- 幅広い分野。現地のニーズと日本側の知見を合わせた「最適解」の模索。

47

48

事例のまとめ～「計画」策定の観点から～

- 「全体的な」研修計画（アウトライン）をまず作成。その後、年度ごとに案件の進捗に応じてより詳しい研修計画の策定＆実施。
- 四囲の状況に応じた柔軟な対応。
- 幅広い分野の研修：日本人関係者の総力を結集。

★　GEM-CCにおける適切な文化財保護・・・エジプトの観光・地域開発に総合的に貢献！

48

49

PART III

地域振興と文化遺産に関するプロジェクトの計画と実践

49

50

事例のまとめと考察:「計画」の役割と重要性、今後の課題

- JICAの文化遺産へのアプローチ
  ＝観光（地域）開発＋文化財保護が基本

【計画段階】

- プロジェクト全体を見据えた「計画」の策定。（GEM-CC）
- 最初期から文化財保護関係者と一緒に事業実施にあたる。（ペトラ）

50

51

事例のまとめと考察:「計画」の役割と重要性、今後の課題

【実施段階】

- 予算＆工程に則っての事業実施
  - ただし、現地の状況・ニーズに応じて柔軟に対応。（ペトラにおける初期遺跡影響評価、エジプトの情勢不安等）
- 被援助国のみならず日本側関係者の足並みを揃える。

【課題】

- GEM-CC＆ペトラでの試行的な取り組み・・・今後の教訓を残す！）（先ほどのスライドですが…）

51

52

ペトラ博物館整備計画の概要と東文研との協力

【JICA－東京文化財研究所の協力おけるフォロー事項・留意点】

①試行的な今回の取り組みの反省と教訓化
⇒どのような協力のあり方が望ましいのか、教訓として残していく。

②開発と文化遺産保護の接点と相互に配慮すべき事項の整理
⇒ヨルダン側、開発関係者（外務省、JICA）、文化遺産関係者が満足し得る最大公約数的な点にどうやって落としていくか？

52

53

（最後に）ODAで文化遺産保護に取り組むためには

ODA（特に技術協力）で文化遺産保護を行うためには？

ODA案件としては決して多くない文化遺産関連案件を立ち上げるために相手国関係者と検討すべきポイントは？

（1）日本のその国対するODAの方針に合致しているか？

（2）その文化遺産を保護することで、地域住民にはどのような裨益があるのか？

（3）地域住民は相手国政府がやろうとしていることを理解しているか？

（4）地域住民が参加する機会は確保されるか？

53

54

（最後に）ODAで文化遺産保護に取り組むためには

（5）相手国側が本当に技術協力を必要としているか？

（6）相手国側の実施体制は継続的に維持され得るか？

（7）目的が研究に偏っていないか？

（8）日本の協力で何ができるのか？

（9）その文化遺産を支援している他の国・研究機関など、うまく連携・業務分担できるか？

（10）プロジェクトの目的や到達目標が明確か？成果がイメージできるか？それらが指標や数値として設定可能か？

54

55

【参考】JICAの文化遺産に対するアプローチ

【基本的な考え方】

- ●文化遺産保全と貧困削減の両立の実現を支援（持続可能な開発への協力）
- ●開発途上国のオーナシップの尊重と日本の知見の活用
- ●遺産保全及び開発援助に携わる関係機関が連携して開発途上国を支援（パートナーシップの推進）
- ●途上国の課題対処能力の向上を包括的に支援（キャパシティ・ディベロップメントのプロセスを支援）

55

56

【ご清聴ありがとうございました！】

56